

長野県松本市

AGATA-MACHI

県 町 遺 跡

— 第15次発掘調査報告書 —

2014.3

松本市教育委員会

長野県松本市

AGATA-MACHI

県 町 遺 跡

— 第15次発掘調査報告書 —

2014.3

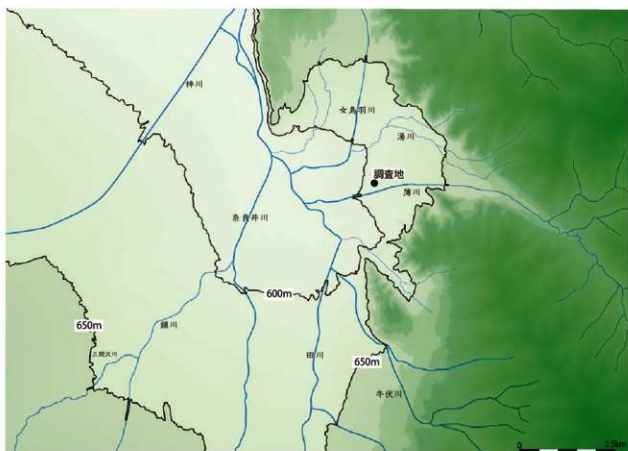
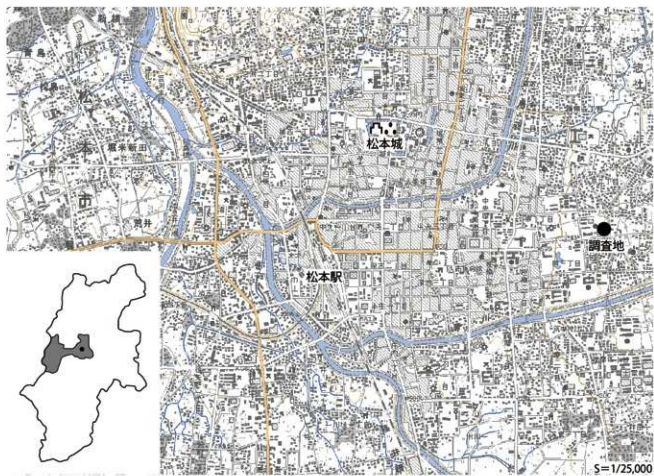
松本市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成22年5月17日から同年8月17日にかけて行われた、松本市県二丁目1番1号外に所在する県町遺跡の第15次発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、長野県松本県ヶ丘高等学校小体育館建設事業に伴う緊急発掘調査で、長野県松本県ヶ丘高等学校校長諏訪繁範から松本市長菅谷昭が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査を実施した。本書の作成についても同様に松本市教育委員会が行った。
- 3 本書の執筆分担は次のとおりである。
Ⅰ：直井雅尚、Ⅱ：内田陽一郎、Ⅲ-1・2・3：内田、Ⅲ-4：直井、Ⅳ：直井
- 4 本書の作成・編集にあたっての作業分担は次のとおりである。
編集：内田、直井
遺構図整理：内田、石川真理子
遺物実測・トレース：久保田瑞恵(土器)、洞沢文江(鉄製品)
写真撮影：石川真理子(現場)、宮嶋洋一(遺物)
- 5 調査区内の地質と周辺地形に関しては森義直氏に御教示をいただいた。
- 6 図中で用いた方位記号はすべて、真北を指している。
- 7 本書の中で使用した遺構名の略称は次のとおりである。 第○号竪穴建物→○住、第○号土坑→土○
- 8 土器・陶器の実測図において断面図の白抜きは土師器・黒色土器、スミ塗りは須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・中世陶器を表している。
- 9 遺構・遺物の記述で用いた古代・中世土器の種別・器種・時期区分等は、以下の文献に拠っている。
(財)長野県埋蔵文化財センター1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4—松本市内その1—総論編』
- 10 本調査における測量図・写真等の諸記録及び出土遺物は松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館(〒390-0823 長野県松本市大字中山3738番地1 TEL:0263-86-4710 FAX:0263-86-9189)に保管・収蔵されている。
- 11 本書の構成は文化庁編集『発掘調査のてびき』に準拠した。

目 次	
例言、目次	1
Ⅰ 経過	
1 調査に至る経緯	3
2 発掘作業の経過	3
3 整理事業等の経過	5
Ⅱ 遺跡の位置と環境	
1 地理的環境	5
2 歴史的環境	5
Ⅲ 調査の方法と成果	
1 調査の方法	7
2 層序	7
3 調査成果の概要	10
4 遺構	10
5 遺物	11
Ⅳ 総括	12

図目次	
第1図 調査地の位置	2
第2図 調査範囲	4
第3図 周辺遺跡	6
第4図 調査全体図	8
第5図 調査地土層図	9
第6図 遺構実測図	13
第7図 土器実測図(1)	14
第8図 土器実測図(2)	15
第9図 金属製品実測図	15
表目次	
第1表 実測土器・陶器一覧表	16
第2表 金属製品一覧表	17
第3表 県町遺跡発掘調査履歴一覧表	17



第1図 調査地の位置

I 経過

1 調査に至る経緯

長野県教育委員会は長野県松本県ヶ丘高等学校校舎等の整備事業を進めており、平成23年度は小体育館の建設が予定されていた。一方、建設予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地県町遺跡の範囲内にあり、建設工事にあたって当該遺跡の破壊が懸念された。そのため関係機関の間で遺跡の保護について協議を行い、緊急発掘調査を実施して記録保存を図ることとなった。協議結果に基づき、発掘調査業務は長野県松本県ヶ丘高等学校長から委託を受けて松本市が実施するため、平成22年4月14日付で埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。

【協議・文書等の記録】

平成21年11月27日 埋蔵文化財包蔵地県町遺跡の保護について協議実施(県高校教育課、県文化財・生涯学習課、市教委)
平成22年1月13日 県町遺跡の発掘調査打合せ(県高校教育課、県ヶ丘高校、市教委)
平成22年1月21日 土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知書提出(高校長から市教委)
平成22年3月11～15日 試掘調査の実施(市教委)
平成22年3月18日 発掘調査の進め方等について打合せ(県ヶ丘高校、市教委)
平成22年4月14日 埋蔵文化財発掘調査委託契約締結(県ヶ丘高校長と松本市長)
平成22年8月17日 発掘調査終了報告書を提出(市教委から県教委へ)
平成22年8月17日 埋蔵物発見及び埋蔵文化財保管証を提出(市教委から松本警察署長へ)
平成22年9月7日 埋蔵物の文化財認定及び出土品の帰属について通知(県教委から市教委へ)
平成23年2月10日 埋蔵文化財発掘調査変更契約締結(高校長と市長)
平成23年3月1日 発掘調査完了報告書の提出(市長から高校長へ)
平成25年4月15日 埋蔵文化財発掘調査委託契約締結(整理・報告書作成)

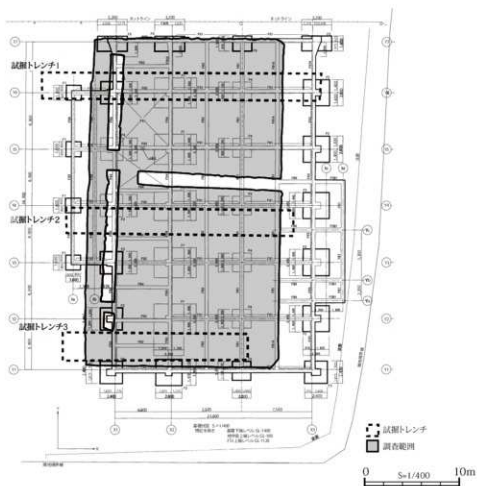
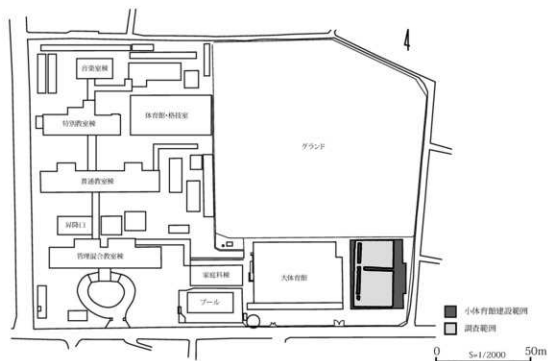
【調査体制】

発掘調査(平成22年度)

調査団長 伊藤 光(松本市教育委員会教育長)
調査担当 内田陽一郎(文化財課埋蔵文化財担当嘱託)、石川真理子(同)
調査員 森 義直(元高校教諭)
作業協力者 井口方宏、石川一男、今井文雄、岩井健一郎、大滝清次、金井秀雄、川崎勝英、黒崎 奨、小岩井洋、関谷昌也、
谷崎 智、丸山祐司、宮澤文雄、百瀬泰宏、矢満田信子
整理作業・調査報告書作成(平成25年度)
整理担当 直井雅尚(文化財課埋蔵文化財担当係長)
作業協力者 内田和子、久保田瑞恵、白鳥文彦、竹平悦子、洞沢文江、前沢里江
事務局 松本市教育委員会 教育部 文化財課 埋蔵文化財担当
課長:塩原明彦(～24年3月)、伊佐治裕子(24年4月～)
課長補佐:大竹永明(～25年3月)、担当係長:直井雅尚(25年4月～)
庶務:小山高志(主査～23年3月)、久保田剛(主査 23年4月～25年3月)、柳澤希歩(嘱託)

2 発掘作業の経過(平成22年度)

発掘調査委託契約締結に従って発掘調査を開始するため平成22年5月17日に現場事務所等の仮設建物、調査区の囲いを設置した。また同日に建設機械を導入し、遺構面の確認とそれに基づく遺構確認までの表土除去作業を開始した。翌18日に測量用の基準点・水準点を設置、20日から本格的に作業員を投入して調査区壁面と検出面の検出作業を開始した。遺構の検出作業は7月5日までにほぼ終了し、引き続き検出状態の全景写真を撮影した。発掘調査区が狭く、排土を置くスペースが確保できなかったため建設業者に排土の搬出と一時保管を委託していたが、これにかかる搬出作業が6月7日から9日の間に行われた。本格的な遺構掘り下げは7月14日から開始し8月5日にほぼ終了した。この間、随時遺物の出土状況や遺構の完掘状況等の写真を撮影し、出土遺物を取り上げるとともに、遺構の平面図・土層図・遺物出土図等を作成した。8月9日から、建設業者によって一時保管されていた排土が搬入され、並行して調査区の埋め戻しを行った。8月11日に埋め戻しは終了し、8月17日に仮設建物、現場用機材の搬出も終了。現場作業は完了した。その後、出土遺物と測量図、各種データ等は松本市立考古博物館に搬入し、基礎的な整理作業を実施した。



第2図 調査範囲

3 整理作業等の経過(平成25年度)

平成23年度の小体育館建設の他にも運動場や校舎施設の建設が遺跡内で予定されており、整理作業と発掘調査報告書の刊行はそれらすべての発掘調査が終了した時点でまとめて実施することとなっていた。しかし試掘等に基づく協議により、それらの開発は緊急発掘調査を実施することなく保護が図られた。このため、予定されていた校舎等の整備事業すべてが終了するのを待って、整理作業と発掘調査報告書刊行のための委託契約を締結した。当該作業は平成25年4月22日から開始し、遺物の洗浄・注記・接合・実測、測量図・遺構図の整理と製図の作業を行った。これらの作業で作成された図類はスキャナーでデータとして読み込み、報告書に掲載する図版としてデジタルで編集した。この作業に並行して報告書の原稿を執筆するとともに、遺構・遺物の一覧表を作成した。

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

松本市県1～3丁目・里山辺西小松に所在する県町遺跡は、松本盆地南東部の薄川北岸、北西方向に緩やかに下る扇状地扇端寄りに立地する。本調査地点は第12次調査の東隣、過去14回の発掘調査のうち最東端に位置し、標高約605m、以前は松本県ヶ丘高等学校のテニスコートとして利用されていた。地形・地質の詳細は松本市教育委員会2003『長野県松本市県町遺跡XII-緊急発掘調査報告書』pp5・6を参照されたい。

2 歴史的環境

(1) 県町遺跡の過去の調査(第3表)

県町遺跡は薄川扇状地扇端部に立地し、東西約1km、南北約0.7kmの広大な面積を占めている。このため遺跡範囲内では以前から開発事業が繰り返され、これに伴う松本市教育委員会による緊急発掘調査は、今回調査までに14回を数える。それらの詳細は第1表に譲るが、これまでの調査で遺跡の内容はかなり解明されつつある。時期的には弥生時代中期後半・後期後半、古墳時代前期・後期、奈良時代、平安時代の遺構・遺物が確認されている。遺構の種類は各時代の竪穴建物为主体であるが、土坑、溝等も伴っている。遺物は各時代の土器類を中心に、弥生時代には磨製石鏃、磨製石斧、石包丁などの石器、古墳時代以降は若干の鉄製品が伴っている。特に平安時代の遺構からは緑釉陶器が多出しており、陶硯・鈔などの特殊遺物もみられる。

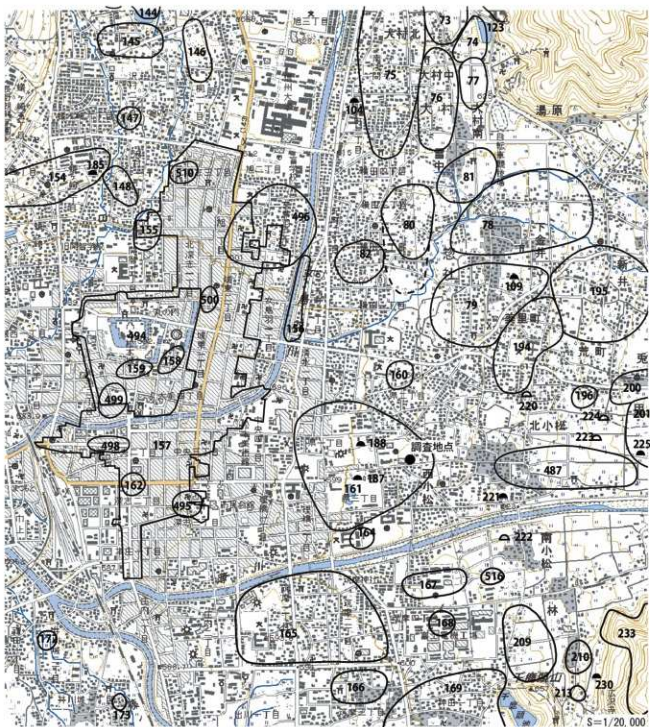
(2) 周辺遺跡(第3図)

ア 薄川扇状地

本遺跡が乗る薄川扇状地上には多くの遺跡が展開している。薄川右岸扇状地の扇状部には下原遺跡(194)、宮北遺跡(79)、新井遺跡(195)、惣社遺跡(78)などがあり、いずれも古墳時代後期から始まり平安時代や中世まで継続する。同じ右岸の扇頂部付近には堀の内遺跡、鎌田遺跡、石上遺跡、兎川寺遺跡(200)、針塚遺跡(201)などが展開し、針塚遺跡では縄文前期初頭、堀の内遺跡や石上遺跡では縄文前期末から集落の形成が始まり、弥生時代以降は平安時代・中世まで断絶を持ちながらも遺跡は継続する。

一方、左岸扇状地は右岸よりも面積は狭いが、本遺跡に相当する扇端部の遺跡としては神田遺跡(169)、三才遺跡(166)、筑摩遺跡(165)などが展開し、弥生時代中期後半以降の遺構・遺物が認められる。扇状部には千鹿頭北遺跡(209)や小松下遺跡(516)、筑摩北川原遺跡(167)があり古墳時代前期から集落が形成される。扇頂部付近の林山腰遺跡は縄文時代中期・後期と平安時代の遺構・遺物が検出され、中世には隣接する林大城・林小城との関連で建物跡などの遺構が発見されている。

薄川扇状地全体の傾向として、まず扇頂部周辺に縄文時代の集落が立地し、弥生時代には扇端部に集落が進出する。扇状部の開発が最も新しく左岸で古墳時代前期、右岸では古墳時代後期が始まりである。生活用水の入



- | | | | |
|-------------|-------------|---------------------|---------------------------|
| 73 大村遺跡 | 148 沢村遺跡 | 173 小島遺跡 | 225 針塚(里山辺4号)古墳 |
| 74 大村古屋敷遺跡 | 154 鎌ヶ崎遺跡 | 185 饅頭塚古墳 | 230 御苜(里山辺9号)古墳 |
| 75 大輔原遺跡 | 155 田町遺跡 | 187 巽1号古墳 | 233 林城址(大城・小城) |
| 76 大村立石遺跡 | 156 女鳥羽川遺跡 | 188 巽2号古墳 | 487 北小松遺跡 |
| 77 大村前田遺跡 | 157 松本城下町跡 | 194 下原遺跡 | 494 松本城(本丸・二の丸・三の丸・外堀・堀堤) |
| 78 惣社遺跡 | 158 丸の内遺跡 | 195 新井遺跡 | 495 天神西遺跡 |
| 79 宮北遺跡 | 159 大名町遺跡 | 196 荒町遺跡 | 496 岡の宮遺跡 |
| 80 横田遺跡 | 160 四ツ谷遺跡 | 200 兎川寺遺跡 | 499 伊勢町遺跡 |
| 81 大村塚田遺跡 | 161 俣町遺跡 | 201 針塚遺跡 | 499 土居尻遺跡 |
| 82 横田古屋敷遺跡 | 162 本町南遺跡 | 209 千鹿頭北遺跡 | 500 片端遺跡 |
| 104 国司塚古墳 | 164 埋橋遺跡 | 210 御符遺跡 | 510 堂町遺跡 |
| 109 惣社車塚古墳 | 165 筑摩遺跡 | 213 林遺跡 | 516 小松下遺跡 |
| 123 大村新切古窯址 | 166 三才遺跡 | 220 荒町(里山辺1号)古墳 | |
| 144 狐塚遺跡 | 167 筑摩北川原遺跡 | 221 北河原屋敷(里山辺11号)古墳 | |
| 145 旧射的堀西遺跡 | 168 筑摩南川原遺跡 | 222 巾上(里山辺10号)古墳 | |
| 146 元原遺跡 | 169 神田遺跡 | 223 大塚1号(里山辺12号)古墳 | |
| 147 沢村北遺跡 | 172 井川城址 | 224 大塚2号(里山辺3号)古墳 | |
| | | | 225 針塚(里山辺4号)古墳 |
| | | | 230 御苜(里山辺9号)古墳 |
| | | | 233 林城址(大城・小城) |
| | | | 487 北小松遺跡 |
| | | | 494 松本城(本丸・二の丸・三の丸・外堀・堀堤) |
| | | | 495 天神西遺跡 |
| | | | 496 岡の宮遺跡 |
| | | | 499 伊勢町遺跡 |
| | | | 499 土居尻遺跡 |
| | | | 500 片端遺跡 |
| | | | 510 堂町遺跡 |
| | | | 516 小松下遺跡 |

●印：調査地点

№：松本市遺跡台帳記載の遺跡番号

第3図 周辺遺跡

手や導水、水田可耕地の確保の難易度が開発時期の差につながったのであろう。

イ 旧市街地湧水地帯

本遺跡よりも西にあたる薄川の downstream には広大な湧水地帯が広がっており、現在では市街地となっているが各所に自噴井戸が残っている。県町遺跡はその湧水地帯を水田可耕地として弥生時代中期に成立したものと推定できる。この湧水地帯には古墳時代前期から中世にかけて、おそらく微高地であったと思われる場所に天神西遺跡(495)、本町南遺跡(162)、伊勢町遺跡(498)などの小遺跡が点在する。中世末の松本城下町形成期から始まる都市化によってこの一帯の遺跡は宅地となり、繰り返された造成・整地は遺跡所在の把握を困難にしていた。近年の試掘調査や立会調査によってその実態が明らかになりつつある。

III 調査の方法と成果

1 調査の方法

(1) 調査地の設定

調査対象地周辺は東高西低に緩やかに傾斜する地形で、調査対象地は造成されたテニスコートとして利用されていた。対象地内3カ所で行った試掘調査結果や排土置き場等を考慮し設定した。(第2図)

(2) 調査方法

発掘調査はバックホーでトレンチ1(T1)からトレンチ4(T4)を掘削し、表土から遺構検出面まで掘り下げ、それ以降は人力による調査を行った。なお、T2の壁は近現代遺物を包含する深い攪乱が多く土層観察には不適切と判断し、東側に土層観察用のあぜを1.5m残した。また、同様の目的でT4の南側にもあぜを残した。排土はバックホーによる表土掘り下げ終了時に業者委託により調査地外への搬出を行い、それ以後に生じた排土は調査区東側に置いた。

試掘結果からテニスコート造成関連土(第5図1～10層)直下層をやや掘り込む面で遺構検出を試みた。検出した遺構は種類毎に番号を付し、掘り下げを行った。遺構の検出・遺物の出土状況が試掘結果と整合しない部分があったためさらにT5を設定し、後にT6・T7を設定した。土坑は現代遺物を包含する攪乱であるものも多く、検出時や半掘時の遺物出土状況と掘り込み面の堆積時期の判断により、半掘または未掘で残したものもある。

(3) 測量方法

世界測地系平面直角座標を調査地内に移設し、3m毎のグリッドを設定し基準とした。標高については調査区南西に水準点(BM=605.148m)を設定した。遺構図・出土図の測量は原則として簡易測り方測量で行ったが、状況に応じて光波測距儀を使用し、いずれも縮尺1/20で図面を作成した。

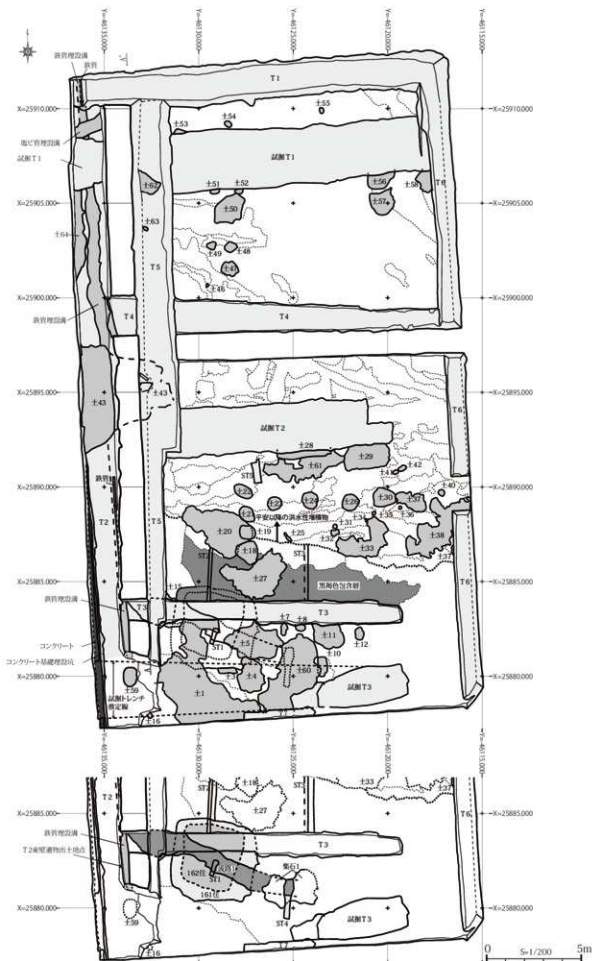
(4) 写真撮影

遺跡の景観・遺構の状況・遺物の出土状態等は、35mm一眼レフカメラによるカラーポジ・モノクロネガフィルムとデジタルカメラで適宜撮影を行った。

2 層序

(1) 遺跡の地層

県町遺跡は薄川扇状地上に立地しているので、基本的に河川性の堆積層を掘り込んで遺構が展開している。弥生時代から平安時代にかけて断続的に河川堆積が進んだため、各時代によって遺構が検出できる深度や堆積層は異なり、さらに広範な遺跡であるため地点ごとでも大きな変移がある。また、旧地形は現在よりも東から西への傾斜があったようで、同一調査地内でも西側の方が遺構検出面は深くなる傾向がある。第5次調査地点(県ヶ丘高校本館)では、調査地西端では現地地表下1.7mで古墳時代後期から平安時代の遺構、さらにその下0.3mで弥生時代中期後半の遺構が検出された。一方、第12次調査地点(県ヶ丘高校大体育館)では現地地表下



第4図 泉町遺跡第15次調査全体図(下:竪穴建物址周辺図)

0.3～0.5mで弥生時代と平安時代の遺構が混在して検出され、さらに平安時代の遺構には洪水に破壊されるものと、その洪水層を切り込んでいるものがあった。平安時代以降にはさらなる河川堆積が進行し、遺跡のほとんどの地点が厚い砂層や砂礫層に覆われており、洪水の本流に遭遇した地点は下部の遺跡層まで大きく破壊されている。

今回の調査地(第15次調査地点)は前記の第12次調査地点の東隣にあり、調査地の北側2/3は平安時代以降の洪水性堆積物に下部まで破壊され、ごく局所的に深い遺構の最下層が残存していたのみである。

(2) 調査地内の土層(第5図)

本調査区トレンチ5(T5)西壁を図示した。1・2層はテニスコートに関連する客土で、テニスコート以前はグラウンドとして利用されていたらしく、グラウンド造成時に2層下面レベル付近まで以前の堆積土が削平されたものと推測される。3～10層はテニスコート造成以前の現代遺物を包含するもので、11～75層はほぼ自然堆積層と判断した。河川堆積による砂礫層が主体を占め、一部洗い出しによるシルト質土が堆積する。北側11～13・25・26・36～39層は比較的多く遺物を包含する砂礫層で、遺物は小破片がほとんどで個体差はあるが器面が摩滅するものが多い。42層は43層上面に堆積するシルト質土で、土師器片(または弥生土器)を包含する。43層同様に比較的安定した時期に堆積したものと推測され、上層砂礫の堆積時に削られているが、遺構覆土の可能性が高いと判断し土坑62とした。同様の土質は土63の覆土にも観察された。161住が検出された面は45・48・51層で、覆土の一部は2層直下で確認できた。

3 調査成果の概要

泉町遺跡の第15次調査である。調査区の大半に薄川と推定される平安時代以降の洪水性の堆積物が確認され、中世以前の遺構面は大きく破壊されていた。わずかに残存していた部分から平安時代の竪穴建物址2棟が検出された。遺物を含む黒褐色土層が発達していた部分も認められた。

調査面積 702.7㎡

発見遺構 竪穴建物址2(161住、162住)、土坑60(土1～土64 欠番あり)、流路1、集石1

出土遺物 土器・陶器(土師器、黒色土器、須恵器、灰軸陶器、緑軸陶器、中世陶器)、瓦、金属製品

4 遺構

(1) 竪穴建物

遺構検出段階で竪穴建物跡と推測される遺構が2棟認められ、遺構番号は1～14次調査の継続で付し、161・162住とした。

ア 第161号竪穴建物址(第6図)

調査区南西に位置する。規模は4.5×4.2m、土1・4・6・15・27、流路1、T3に切られるが、平面形は隅丸方形と推測され、162住の上部を破壊する。カマドは東壁中央やや北寄りに焼土・炭化物が集中する範囲が認められ、袖石と推測される礫が1点残る。袖石は上端をT3掘削時に欠くが南側面にススが付着し被熱していた。遺物は土器と鉄製品が出土している。土器は西暦9世紀中頃の様相を呈している。

イ 第162号竪穴建物址(第6図)

調査区南西に位置し、161住の床面直下で検出した。規模は3.3×3.0m、流路1、161住に切られるが、平面形は隅丸方形と推測される。カマドの痕跡は確認できなかった。覆土下底部掘削中に浅い皿状の凹みが確認できた。遺物は南東隅から比較的多く出土した。土器と鉄製品がある。良好な土器群で、9世紀中葉から後半頃の所産と推定される。

(2) 土坑

60基確認され、1号から64号までの命名をしたが、近代の攪乱と中世以降の洪水等に伴って形成されたもの

が多い。中世や古代に遡るものもいくつかあると推定するが明瞭に確定はできなかった。人為的な遺構の可能性があるものは土坑1・63・64など非常に少なく、これらも上部を洪水で大きく破壊されて詳細は不明である。遺物は土器・陶器と金属製品が出土しているが、金属製品の中には近代以降の新しいものも多い。土器・陶器についても出土した土坑の年代を示すものとするには疑問が残る。

(3) その他の遺構

ア 流路1(第6図)

調査区南西に位置し、南東から北西に向け、約9m確認できた。西端はT3で検出され、鉄管埋設溝・T2・コンクリート基礎埋設坑に切られ、東端はST4で確認できたが、それ以东は確認できなかった。161・162住を切る。幅は約90cm、深さは約70cmで側壁はほぼ直角、部分的にオーバーハングする。埋設土はシルトを含まない流理構造を有する砂礫が詰まり、上に褐色細砂がのる。人為的に掘削されたものかは不明である。161・162住のカマド袖石と推定される被熱した礫が数点出土した。

イ 集石1

調査区南、流路1の東端検出中に確認した。φ20cm程度の礫が集中し礫間にシルト・砂が入らない。流路1上に堆積するもので人為的に集められたものと判断した。

ウ T2東壁

調査区南西T2南側東壁部分で比較的遺物がまとまって出土した。T2と鉄管埋設溝に切られ明確な遺構としてとらえることはできなかったが、小型甕(第8図65)の内部に黒色土器A杯(第8図61)が入った状態で出土した。

5 遺物

土器・陶器と瓦、金属製品が出土した。近代以降の攪乱からはかつての高校校舎関連の廃品・建材が多く出土しているが本書では取り扱わない。

(1) 土器・陶器(第7・8図、第1表)

ア 種別・器種・器形

整理用コンテナ6箱分が出土した。種別は土師器、黒色土器A・B、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、中世陶器で、大半を土師器、黒色土器A、須恵器、灰釉陶器が占める。86点を図化提示した。

土師器 杯A、鉢、甕及び小型甕があり、量的な主体は甕と小型甕が占める。

黒色土器 内面に黒色処理が行われる黒色土器Aと内外面が黒色処理される黒色土器Bの2種があるが、後者は皿と耳皿の2点のみである。黒色土器Aには杯Aと碗、皿、鉢があり、いずれもロクロナデと内面のミガキが行われている。杯は杯AⅠと杯AⅡのふたつの容量のものが認められる。

須恵器 杯A、杯B、蓋(蓋蓋と杯蓋)、高杯、盤、壺(短頸壺または長頸壺)、四耳壺、甕と多様だが、検出された遺構の時期を大きく遡るものも含まれている。

灰釉陶器 碗、皿、短頸壺、長頸壺、壺(短頸壺または長頸壺)がある。

イ 土器群

2棟の竪穴建物跡から土器・陶器がまとまって出土している。第7図1～18を161住出土土器群、19～43を162住出土土器群として扱う。また161住と162住の出土品で接合したもの(同図44～50)があり7点を図示しているが、遺構所見では162住を161住が切って構築されているので、一応162住出土土器群に準ずるものとして扱いたい。

161住出土土器群 黒色土器A杯AⅠ・鉢、土師器甕・小型甕、須恵器杯Aで構成される。食器の主体が黒色土器Aと須恵器の杯Aで占められ、灰釉陶器も含めて碗形の器形が認められないのが特徴である。松本平福年7期、西暦9世紀中頃の所産と推定する。

162住出土土器群 黒色土器A杯AⅠ・杯AⅡ・椀、黒色土器B皿・耳皿、土師器甕・小型甕・鉢、須恵器杯A・短頸壺・壺蓋、灰軸陶器椀・皿で構成される。食膳具の主体は黒色土器Aと須恵器の杯Aであるが黒色土器Aの椀が加わっている。また灰軸陶器の椀と皿が伴う。この椀と皿は体部が腰の張った形態で丈の低い底面の平らかな高台を有し、灰軸陶器の中では古相に属すると考える。杯Aが主体を占めながらも、黒色土器Aの椀や古相の灰軸陶器が伴う点から、前記161住出土土器群より若干後出の平編年7期から8期、西暦9世紀中葉から後半頃の所産と推定する。これは遺構所見とは逆の結果となった。しかし、161住と162住出土土器群が当時の様相の器種器形をすべて含んでいるはずはないので、厳密な時期差があるのではなく、ほぼ同一時期の所産と捉えれば問題はないと考える。

(2) 金属製品(第9図、第2表)

遺構内と検出面などから30点が出土したが、後世の混入品を排除できていない。紡錘車、板状製品、釘状製品、棒状製品、銭貨(元祐通宝)、キセル吸い口などがある。形状から古代・中世に伴うものの可能性が高い6点を図示した。

IV 総括

発見された竪穴建物址は出土した土器から見て、平安時代前期、西暦9世紀の中ごろに存在したものと考えられる。本遺跡は全体で見ると弥生時代中期から平安時代後期まで連続と継続しているが、調査地点によって時期や内容にかなり相違がある。今回の第15次調査地点の特徴は、第一に平安時代前期の良好な土器群を伴う竪穴建物が検出されたこと、第二に平安時代以降の洪水の主要流路にあたっており、古代の遺構面が破壊されている部分が多かったことである。

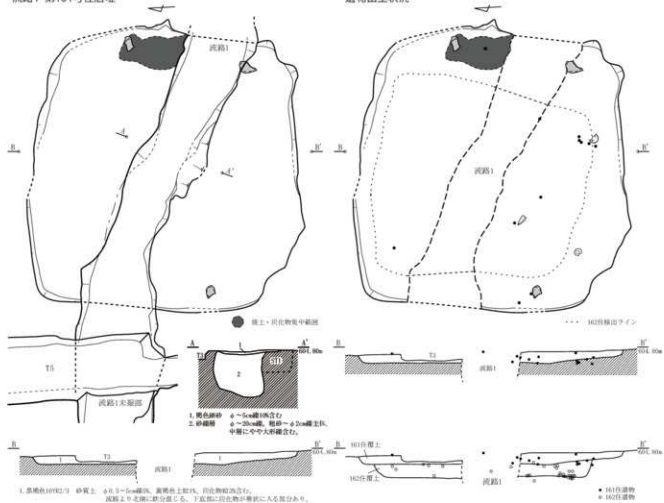
前者については、黒笹14号窯式に属するとみられる灰軸陶器の椀と皿を伴っており、出土例が希な貴重な陶器を保有していたことは、当時とすればかなりの有力者がこの一帯に居たことを物語る。第4・16次調査地点での緑軸陶器の多出とともに平安時代全般を通じて有力な集落であったことが確認された。

後者については、本遺跡は薄川の扇状地扇端部にあたり、弥生時代中期の集落成立期から河川の洪水にたびたび見舞われてきたことが判明している。その中で、今回の調査地点を襲った洪水が9世紀中ごろ以降と特定できたことになる。今後、本遺跡の調査を進める中で、時代ごとの居住域の特定と塗り分けの作業は重要だが、時代ごとの洪水流路の分布を把握していくこともその作業に役立つと考える。さらに言うなら、このような洪水頻発地域で1,000年以上にわたって集落を維持しなければならなかった背景を探り出すことこそが、地域のみならず、我が国の古代を理解していく上で重要なことと考える。

文末ではありますが、今回の発掘調査の実施にあたり松本県ヶ丘高校の教職員の皆様、長野県教育委員会高校教育課、そして地域の皆様からは多大なご理解とご援助を頂きました。記して感謝申し上げます。

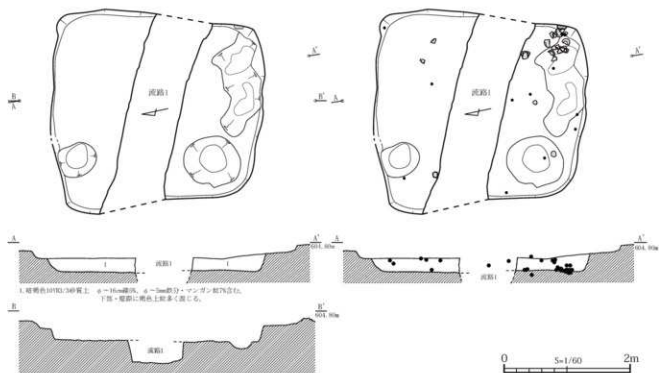
流路1・第161号住居址

遺物出土状況



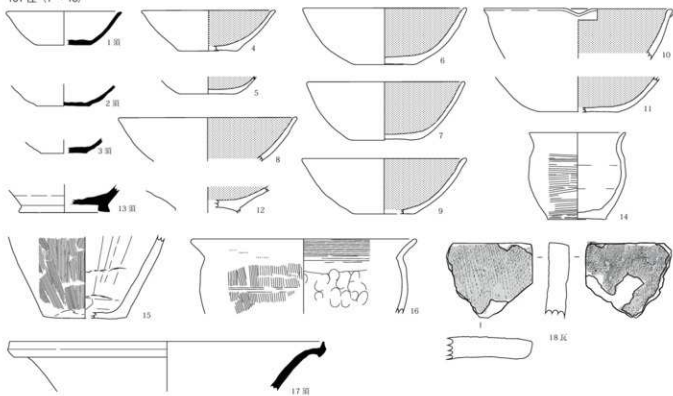
第162号住居址

遺物出土状況

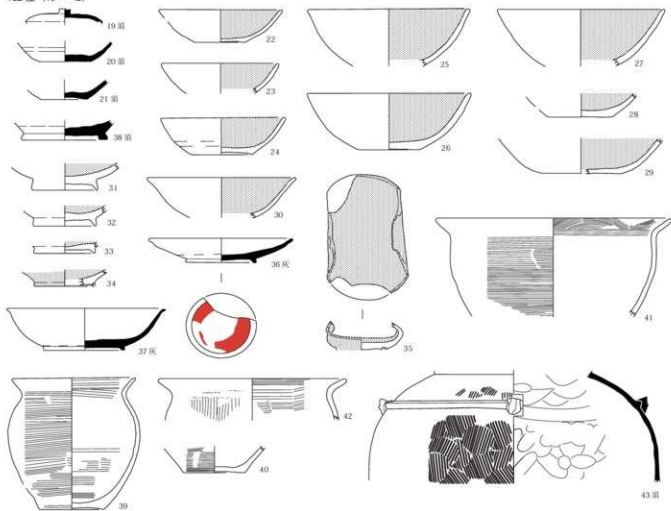


第6図 遺構実測図

161住 (1~18)

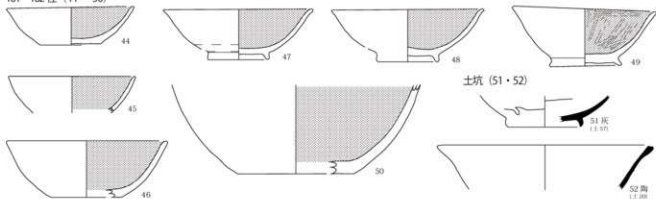


162住 (19~43)

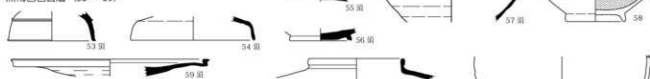


第7図 土器実測図(1)

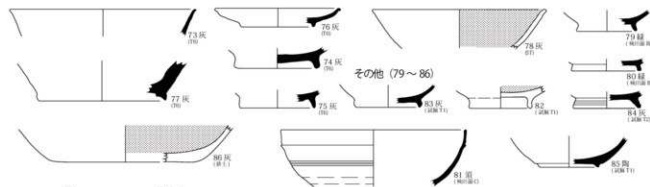
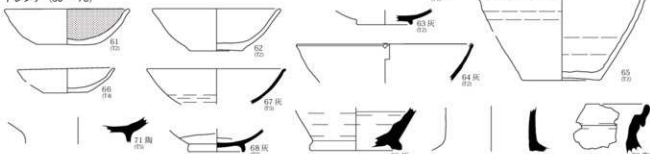
161・162住 (44~50)



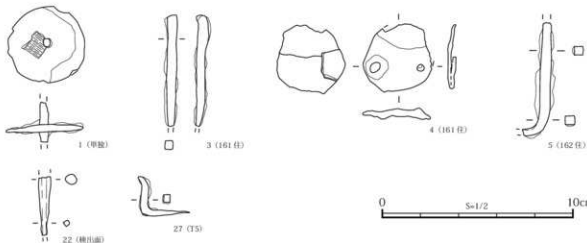
黒褐色包層 (53~59)



トレンチ (60~78)



第8図 土器実測図(2)



第9図 金属製品実測図

地点	No	種別	部類	寸法				現存度	成形・調整の特徴等		実測番号	備考
				口径	底径	底高	口縁		外面	内面		
161住	1	須	杯A (12.9)	6.2	3.6	1/16	1/2	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ	161住-13		
	2	須	杯A (5.9)				2/3	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ	161住-14		
	3	須	杯A (5.9)				1/4	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ	161住-15		
	4	黒A	杯A I (14.2)	6.5	4.4	1/5	1/4	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	161住-1		
	5	黒A	杯A I (6.3)					コクロナデ, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	161住-6		
	6	黒A	杯A II (14.4)				1/4	コクロナデ	コクロナデ, ミガキ(横-縦), 黒色処理	161住-3		
	7	黒A	杯A II (16.7)	7.0	(6.2)	一部	1/2	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(横-縦), 黒色処理	161住-7		
	8	黒A	杯A II (19.0)				1/5	コクロナデ	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	161住-2		
	9	黒A	杯A II (17.4)	(5.9)	1/4	一部		コクロナデ, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(不定), 黒色処理	161住-8	黒いけ	
	10	黒A	杯 (20.0)				1/8	コクロナデ	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	161住-5	片口方南	
	11	黒A	杯 (17.2)				1/4	コクロナデ	コクロナデ, ミガキ(横-斜), 黒色処理	161住-4		
	12	黒A	皿						コクロナデ, ツグ高台	コクロナデ, ミガキ, 黒色処理	161住-9	黒いけ
	13	須	壺	6.6			1/3	調整ケズI, ツグ高台, 回転成形	コクロナデ	161住-16		
	14	土	小空甕 (10.2)	6.2	(9.5)	2/3	2/3	コクロナデ, 舟形, 回転成形	コクロナデ	161住-12		
	15	土	甕 (8.8)				1/3	腕・ウケムスナデ	腕の口目ナデ	161住-10		
	16	土	甕 (23.9)				1/5	コクロナ, 腕・ウケムスナデ	コクロナ	161住-11		
	17	黒A	甕 (33.4)						コクロナデ	161住-17	赤灰色の甕土	
	18	瓦						友蘭目・藍・白目	161住-18			
	162住	19	須	直壺 4.1			1/7	フタミシ	コクロナデ, 回転ケズI, ツグみ付	コクロナデ	162住-20	
20		須	杯A (5.9)				1/2	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	162住-10	酸化焙焼成	
21		須	杯A 5.5				完	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ	162住-11		
22		黒A	杯A I (13.0)	5.7	3.5	1/2	ほぼ完	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(横-縦), 黒色処理	162住-2		
23		黒A	杯A I (12.4)				1/4	コクロナデ	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	162住-8		
24		黒A	杯A I (13.1)	7	4.0	ほぼ完	完	コクロナデ, 回転成形, 回転ケズI	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	162住-1		
25		黒A	杯A II (17.2)				1/5	コクロナデ	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	162住-6		
26		黒A	杯A II (17.2)	(7.4)	6	一部	2/3	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	162住-3		
27		黒A	杯A II (17.8)				1/6	コクロナデ	コクロナデ, ミガキ(不定), 黒色処理	162住-13	黒いけ	
28		黒A	杯A II (7)				完	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	162住-3		
29		黒A	杯 (9.4)				1/4	コクロナデ	コクロナデ, ミガキ(横-縦), 黒色処理	162住-4		
30		黒A	杯 (15.8)				1/4	コクロナデ	コクロナデ, ミガキ(横-縦), 黒色処理	162住-7		
31		黒A	杯 (17.2)				1/3	コクロナデ, 回転成形, ツグ高台	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	162住-9		
32		黒A	杯 6.7				一部欠	腕-体部回転ケズI, ツグ高台	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	162住-15		
33		黒A	杯 7.8				7/8	ツグ高台, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	162住-14		
34		黒B	皿 (6.4)					コクロナデ, 底面回転成形, 黒色処理	ミガキ(横), 黒色処理	162住-16	内外面黒色処理	
35		黒B	紅壺			3/5		ミガキ(不定), 底面調整ケズI, ツグ高台, 黒色処理	ミガキ(横), 黒色処理	162住-21	内外面黒色処理	
36		黒B	皿 15.3	7.6	2.6	1/2	3/5	コクロナデ, 回転ケズI, ツグ高台	コクロナデ・輪軸(ハケ塗)	162住-17	輪軸内面のみ, 底面赤土	
37		黒B	杯 16.8	8.6	4.5	2/3	完	コクロナデ, 回転ケズI, ツグ高台, 輪軸(ハケ塗)	コクロナデ・輪軸(ハケ塗)	162住-18	内外・底面輪軸, 底面赤土, トシコ直	
38	須	加取甕 (9.5)				1/3	系切調整回転ケズI, 調整回転ケズI, ツグ高台	コクロナデ	162住-19	内外面自然釉		
39	土	小空甕				一部現	舟形, 回転成形	コクロナデ, 口縁・胴部トカキ目	162住-24			
40	土	小空甕 6.5				完	舟形, 回転成形	コクロナデ	162住-12			
41	土	鉢 (25.0)			1/4		コクロナデ, 舟形	3層調整仕上がり, 舟形目, コクロナデ	162住-23	内面スス, 舟目原付同		
42	土	甕 (20.0)					腕・ウケ	コクロナデ	162住-22			
43	黒A	四山甕					タヌキ, 突部・耳取付	当て具輪と胎ナデ製	162住-25			
161・162住	44	黒A	杯A I (13.4)	6.6	4.0	1/2	完	コクロナデ, 調整回転成形機加工具ナデ	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	161-21E1		
	45	黒A	杯A I (13.4)				2/5	ナシ	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	161-21E3	
	46	黒A	杯A II (17.0)	(7.4)	(6.0)	1/5	一部現	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	161-21E2		
	47	黒A	杯 (15.7)	6.5	5.4	1/7	完	コクロナデ, 回転ケズI, ツグ高台	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	161-21E4	一部黒いけ	
	48	黒A	杯 (8.1)	6.6	5.5	一部現	完	コクロナデ, 回転ケズI, ツグ高台	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	161-21E6		
	49	黒A	杯 15.2	7.6	6.1	1/4	完	コクロナデ, 回転成形, ツグ高台	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	161-21E5	ミガキは暗文状	
	50	黒A	杯 (12.5)				2/5	コクロナデ, 底部一部ナシ	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	161-21E7		
	51	黒A	杯 (8.2)				1/3	コクロナデ, 体部1方輪軸, ツグ高台	コクロナデ, 1層輪軸	157-1		
	52	陶器	苜蓿鉢 (23.9)						コクロナデ	157-2	苜蓿系高脚	
	53	須	壺 (9.4)				一部	コクロナデ, 調整ケズI, 洗刷	コクロナデ	黒色含6	外面上部に自然釉	
黒色含赤含青	54	須	壺 (13.2)					コクロナデ	黒色含4	内外面黒色処理		
	55	須	壺 (13.2)					フタミシ	コクロナデ, 調整ケズI, 調整ケズI	黒色含5	外側上部に自然釉	
	56	須	杯B (6.6)				1/5	コクロナデ, ツグ高台, 回転成形	コクロナデ	黒色含2		
	57	須	杯A (14.5)				1/5	コクロナデ	コクロナデ	黒色含1		
	58	須	杯 (6.4)				1/2	コクロナデ, ツグ高台, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	黒色含3		
	59	須	壺 (21.0)				1/2	コクロナデ, 調整ケズI	コクロナデ	黒色含7	内面自然釉	
	T1	60	黒A	加取甕 (10.1)				1/8	コクロナデ, 輪軸	コクロナデ	T1-1	
		61	黒A	杯A I (13.2)	6.4	8.7	ほぼ完	完	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	T2-1	
		62	土	杯 (13.0)	(6.0)	(9.5)			コクロナデ, 回転成形	コクロナデ	T2-2	
		63	黒A	杯 (11.9)				1/5	コクロナデ, ツグ高台, 回転成形	コクロナデ	T2-5	
T2	64	黒A	輪花鉢 (18.6)					コクロナデ, 輪軸(ハケ塗)	コクロナデ, 輪軸(ハケ塗)	T2-4		
	65	土	小空甕 10.2				ほぼ完	コクロナデ, 回転成形	コクロナデ	T2-3		
	66	土	杯 (10.3)	(6.2)		1/4		コクロナデ, 回転成形	コクロナデ	T4-1		
	67	黒A	杯 (14.8)				1/10	コクロナデ, 調整ケズI, 調整ケズI	コクロナデ, 輪軸(ハケ塗)	T5-1		
T5	68	黒A	杯 (6.2)				1/2	コクロナデ, 調整輪軸, 調整調整ケズI	コクロナデ, 輪軸(濃青)	T5-2		
	69	黒A	杯 (9.8)				1/5	調整調整ケズI, フタ高台, 輪軸	コクロナデ	T5-3	内面に輪付首	
	70	黒A	杯 調整輪				1/4	コクロナデ	コクロナデ	T5-5		
	71	陶器	苜蓿鉢					コクロナデ, ツグ高台	コクロナデ	T5-3	苜蓿系高脚	
	72	陶器	壺				一部現	コクロナデ	コクロナデ	T5-6	苜蓿	
	73	黒A	杯 (19.7)			1/12		コクロナデ, 輪軸	コクロナデ, 輪軸	T6-1		
T6	74	黒A	杯 (8.7)				1/2	コクロナデ, ツグ高台, 調整ケズI	コクロナデ, 輪軸	T6-3	粘土薄褐色	
	75	黒A	杯 (8.7)					コクロナデ, 調整ケズI, ツグ高台	コクロナデ	T6-4		
	76	黒A	杯 (13.3)	(2.0)		1/8	1/8	コクロナデ, ツグ高台	コクロナデ	T6-2		
	77	黒A	杯 (13.7)				1/8	コクロナデ, 調整調整ケズI, ツグ高台	コクロナデ	T6-5		
ST1	78	黒A	杯 (18.4)			1/6		コクロナデ	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	ST1-1		
	79	黒B	鉢 (6.9)				1/8	コクロナデ, ツグ高台, 調整ケズI	コクロナデ	輪軸1	底部に付着物	
輪付首	80	黒B	鉢 (7.4)				1/8	コクロナデ, ツグ高台, 調整ケズI	コクロナデ	輪軸2		
	81	須	杯 (19.6)				一部	コクロナデ, 調整ケズI	コクロナデ	輪軸3		
	82	黒A	杯 (6.7)				1/2	コクロナデ, ツグ高台, 調整ケズI	コクロナデ, ミガキ, 黒色処理	輪付1		
鉢付首	83	黒A	杯 (7.2)				1/4	コクロナデ, ツグ高台, 調整ケズI	コクロナデ	輪付2		
	84	黒A	杯 (7.2)				1/4	コクロナデ, ツグ高台, 調整ケズI	コクロナデ	輪付3		
	85	黒A	杯 (7.0)				1/4	コクロナデ, ツグ高台, 調整ケズI	コクロナデ	輪付4	高台に種子状直取	
埴土	86	黒A	鉢 (15.5)					コクロナデ, 調整ケズI	コクロナデ, ミガキ(横), 黒色処理	埴土-1		

第1表 県町遺跡第15次 実測土器・陶器一覧表

№	出土情報		種別 材質	器 種 名	寸法(mm)			重量(g)	備 考
	出土地点	取り上げ時の記載			最大長	最大幅	最大厚		
1	単独	鉄№1 X885Y130	鉄製品	紡錘車	44.6	42.6	5.5	23.5	第9図
2	単独	鉄№1 X885Y130	鉄製品	紡錘車片	15.4	6.4	5.5	1.0	
3	161住	161住№12	鉄製品	釘状不明品	49.8	8.1	8.0	6.4	第9図
4	161住	161住北東	鉄製品	不明品	35.5	35.4	5.2	8.3	第9図
5	162住	161住№11	鉄製品	釘状不明品	73.6	10.6	9.5	12.5	第9図
6	土坑1	土坑1トレンチ3より南	銅製品	銭貨(元祐通宝)	23.0	22.9	1.5	2.0	初録1086年
7	土坑1	土坑1トレンチ3より南	銅製品	不明品	21.7	21.3	1.2	1.4	
8	土坑1	土坑1トレンチ3より南	鉄製品	釘片状	23.8	7.9	6.4	1.6	
9	土坑1	土坑1トレンチ3より南	鉄製品	釘片状	26.7	5.4	4.0	1.1	
10	土坑8	土坑8	鉄製品	不明品	15.2	7.5	5.1	0.5	
11	土坑8	土坑8	鉄製品	板状不明品					9.6
12	土坑20	土坑20	鉄製品	板状不明品	22.0	20.0	4.9	3.0	
13	T1	トレンチ1西端壁	鉄製品	棒状不明品	142.9	4.6	3.8	9.5	
14	T2	トレンチ2東壁	鉄製品	棒状不明品	48.9	5.6	4.1	2.4	
15	T2	トレンチ2西壁	鉄製品	環状不明品	24.2	17.5	5.8	4.0	
16	T2	トレンチ2西壁	鉄製品	板状不明品	27.7	14.1	4.5	1.8	
17	T2	トレンチ2西壁	鉄製品	釘状不明品	27.3	6.4	3.4	1.0	
18	T2	トレンチ2西壁	滓						
19	黒褐色包合層	黒褐色包合層ST2-3の間	銅製品	板状不明品	32.6	17.2	2.4	1.9	
20	単独	トレンチ4-3の間	銅製品	銭貨?	19.8	19.7	1.7	3.0	
21	検出面	トレンチ4-3の間 検出面	鉄製品	棒状不明品	47.1	9.0	5.8	5.0	
22	検出面	トレンチ4-3の間 検出面	鉄製品	釘状不明品	31.6	7.3	6.9	2.1	第9図
23	検出面	トレンチ4-3の間 検出面	鉄製品	釘状不明品	23.4	6.4	4.3	1.2	
24	検出面	トレンチ4-3の間 検出面	鉄製品	釘状不明品	22.4	5.9	5.4	1.0	
25	表土層	トレンチ4-3の間 表土	鉄製品	不明品	12.3	11.1	2.3	0.4	
26	T4掘強部	トレンチ4掘強部№14	銅製品	キセル吸口	27.5	9.1	8.8	2.5	近代以降
27	T5	トレンチ5	鉄製品	釘	45.4	5.8	5.4	3.5	
28	T5	トレンチ5東カベA-5	鉄製品	釘	29.4	8.8	4.9	1.4	
29	T5	トレンチ5西カベB-6	鉄製品	不明品	24.1	10.6	6.5	1.3	
30	T6	トレンチ6東カベ2-2	鉄製品	不明品	30.0	7.5	6.7	1.7	

第2表 県町遺跡第15次 金属製品一覧表

調査次	調査年	調査原因	調査面積	発見された遺構	特記事項
1	S55	公園整備	4,000	住居3(弥生2,平安1),礎石遺構1	弥生時代の石器が一括出土
2	S59	駐車場造成	1,338	住居17(弥生)	焼失住居4軒
3	S60	公園整備	1,372	住居24(弥生23,平安1)	
4	S61	校舎改築	853	住居13(平安),溝4,集石3	緑釉陶器、青磁、白磁、鈔幣
5	S62	校舎改築	696	住居27(弥生2,古墳4,平安21),溝2,ピット群1	古墳時代の遺構を確認
6	S63	校舎改築	84	住居2(平安)	
7	S61	校舎改築	6	住居2(平安)	
8	H1	校舎改築	48	住居2(平安)	
9	H3	博物館建設	330	建物1(平安)	大型の掘立柱建物址(5×4間)発見
10	H7	貯水槽設置	40	溝2	
11	H9	公営住宅建設	662	住居4(奈良・平安),建物1	海老鏡、鳳字硯、朱墨硯、皇朝十二銭(隆平永宝)、鉄製品
12	H13	体育館改築	1,200	住居37(弥生1,奈良・平安27,不明8)	緑釉陶器、緑彩文陶、緑釉三足盤、鈔幣、陶瓦、銭貨
13	H16	民間開発	170	土坑,ピット	
14	H19	民間開発	595	住居21(奈良・平安),井戸2	多量の緑釉陶器、緑彩文陶、墨書土器、朱墨硯、丸硯、銭貨、青磁、白磁
15	H22	体育館建設	702	住居2(平安)	
16	H22-23	保育園建設	4,420	住居55(弥生5,平安50),建物5(弥生),土器棺墓1,火葬木棺墓1	勾玉、管玉、指輪状石製品、多量の緑釉陶器、緑彩文陶、青磁、白磁、鈔幣
17	H24	運動場造成	2,259	住居40(弥生~平安),建物3(平安),木棺墓5(弥生)	木棺礎床墓から多量の焼骨、初期須恵器

第3表 県町遺跡 発掘調査履歴一覧表



県町遺跡一帯の航空写真(2009年撮影)



航空写真の解説

①県ヶ丘高校 ②農業生物資源研究所 ③蚕糸公園 ④あがたの森公園 数字は調査地と調査回数

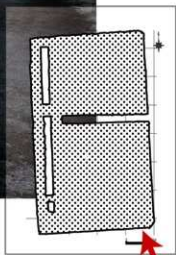


調査地周辺を西方上空から望む（2012年7月撮影）





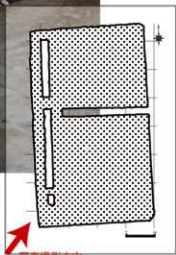
発掘開始前の調査地



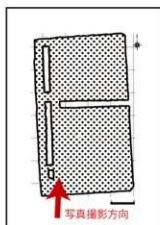
写真撮影方向



発掘終了時の調査地

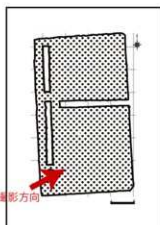


写真撮影方向



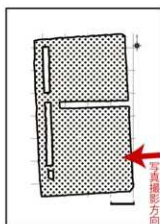
調査地西側の完掘状況

洪水性の砂礫の中に遺構が覆り込まれており、近代以降の埋設物による攪乱も見える。



調査地東側の完掘状況

調査地の南東部は特に砂礫層が厚く、大小の河川礫が多量に含まれている。



調査地南側の完掘状況

遺構検出面は東(手前側)から西へと緩傾し深くなる。東端部は現地地表下20～30cmで到達する。



第161号住
東側から撮影
中央部を流路1に破壊される



第161号住
北側から撮影
右側の深い溝はトレンチ5



第161号住
土器出土状態



第162号住完掘
東側から撮影
161 住の直下にあたる



第162号住検出状況
東側から撮影
161 住の床面精査で輪郭を把握



第162号住土器出土状況
黒色土器杯(22)・椀(33)、灰輪
陶器椀(38)、須恵器四耳壺(43)
などが認められる



調査地北端部
トレンチ1堆積状況
現地表下はほとんど砂礫層



調査地西部
トレンチ5西壁
洪水性の礫と砂が重層的に堆積
部分的にわずかな包含層が残る



161住掘り下げ作業
平安期の遺構は下部の礫層を掘り
込んで構築され、上部を洪水で破
壊されている



灰釉陶器 皿 (第7図 36)



黒色土器 耳皿 (第7図 35)



灰釉陶器 椀 (第7図 37)



黒色土器 杯 (第8図 62)



トレンチ 2 土器出土状態 (第8図 62・65)

長野県松本市 県町遺跡第 15 次発掘調査 報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし あがたまちいせき だい15じはくつちょうさほうこくしょ							
書名	長野県松本市 県町遺跡 第15次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.213							
編著者名	内田陽一郎 直井雅尚							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-8620 松本市丸の内3番7号 TEL 0263-34-3000 (代) 記録・資料保管：松本市考古博物館 〒390-0823 松本市中山3738-1 TEL 0263-86-4710							
発行年月日	2014 (平成26)年3月31日 (平成25年度)							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
あがたまち 県 町	ながのけん まつもとし 松本市 県 2-1-1	20202	161	36° 14' 10"	137° 58' 40"	H22.5.17 ～ H22.8.17	702.7 m ²	長野県松本 県ヶ丘高等 学校小体育 館建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
県 町	集落跡	古墳 奈良 平安 中世	竪穴建物址 土坑 流路 集石	2 棟 60 基 1 本 1 基	土師器 黒色土器 須恵器 灰釉陶器 緑釉陶器 中世陶器 瓦 金属製品 銭貨	平安時代前期の竪穴建物 2棟が検出され、同時期の 土器が出土した。土器群は 古相の灰釉陶器を含む良好 なものである。 調査地全域にわたって平 安前期以降の薄川の洪水に 覆われており、砂礫層で古 代の遺構面が破壊されてい る部分も多かった。		
要 約	<p>県町遺跡は女鳥羽川と薄川が形成した複合扇状地の扇端部に立地する。今回の調査地点は県町遺跡の東部に位置し、現在の薄川から500m程離れた、遺跡内でも高い場所に位置している。これまでに14次にわたる発掘調査が行われており、弥生時代中期後半から平安時代後期までの竪穴建物150棟以上が発見されている。松本市街地東部の代表的な集落遺跡である。</p> <p>今回の発掘調査は長野県松本県ヶ丘高等学校の小体育館建設事業に伴う緊急発掘で、702.7 m²の面積を調査した。発見された遺構は平安時代の竪穴建物2棟、土坑、流路、集石である。出土した遺物は土器陶器が中心で、土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器などが主体を占め、わずかに緑釉陶器・中世陶器が伴う。特に竪穴建物址から出土した土器群は9世紀中頃の様相を示す良好なものである。</p> <p>調査地内には弥生～古墳時代に形成された砂礫層と、平安時代以降に起った薄川の氾濫性の堆積層が検出され、古代の遺構面がかなり破壊されていた。調査地周辺に薄川の氾濫がたびたび及ぶ中で、1,000年以上にわたって維持された集落であることがうかがえた。</p>							

松本市文化財調査報告No213

長野県松本市

県町遺跡

—第15次発掘調査報告書—

発行日 平成26年3月31日

発行 松本市教育委員会

〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号

印刷 信州印刷株式会社